

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-301779

(43)Date of publication of application : 19.11.1996

(51)Int.Cl.

A61K 35/78

A61K 35/78

A61K 35/78

A61K 35/78

(21)Application number : 07-107605

(71)Applicant : SANSHO SEIYAKU CO LTD

(22)Date of filing : 01.05.1995

(72)Inventor : YAMASHITA SAORI

## (54) EXTERNAL PREPARATION FOR ATOPIC DERMATITIS

## (57)Abstract:

PURPOSE: To obtain an external preparation excellent in safety, having a moisture-retaining effect and an antiinflammatory effect, excellent in an antipruritic effect, and having suitability as the external preparation for the atopic dermatitis.

CONSTITUTION: This external preparation for the atopic dermatitis contains the extract of one or more kinds of plants selected from the group of *Tilia Europaea* L., *Melissa officinalis* L., *Trigonella foenumgraecum* L., *Borago officinalis* L., *Paris polyphylla* Smith var. *chinensis* Franch., *Pyrola japonica* Kenze, *Clerodendron cyrtophyllum* Turcz, *Pinellia cordata* N. B. Br., and *Clinopodium chinense* (Benth.) O. Ktze., as an active ingredient.

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

\* NOTICES \*

Japan Patent Office is not responsible for any damages caused by the use of this translation.

1.This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.

2.\*\*\*\* shows the word which can not be translated.

3.In the drawings, any words are not translated.

---

CLAIMS

---

[Claim(s)]

[Claim 1] External preparations for atopic dermatitis characterized by making into an active principle the extract of a kind or two sorts or more of vegetation chosen from the group which consists of Linden, a lemon berm, common fenugreek, RURIJISHA, SOUKYUU, Pyrola japonica Klenze, large green leaves, \*\*\*\*\*, and Clinopodium chinense (Benth.) O. Ktze.

---

[Translation done.]

**(書誌+要約+請求の範囲)**

---

(19)【発行国】日本国特許庁(JP)  
(12)【公報種別】公開特許公報(A)  
(11)【公開番号】特開平8-301779  
(43)【公開日】平成8年(1996)11月19日  
(54)【発明の名称】アトピー性皮膚炎用外用剤  
(51)【国際特許分類第6版】

A61K 35/78      ADA

ABE  
ABF

**【FI】**

A61K 35/78      ADA C  
                                V  
                                W  
                                ABE Q  
                                ABF J

【審査請求】未請求

【請求項の数】1

【出願形態】OL

【全頁数】9

(21)【出願番号】特願平7-107605

(22)【出願日】平成7年(1995)5月1日

(71)【出願人】

【識別番号】000176110

【氏名又は名称】三省製薬株式会社

【住所又は居所】福岡県大野城市大池2丁目26番7号

(72)【発明者】

【氏名】山下 沙織

【住所又は居所】福岡県大野城市大池2丁目18番5号

(74)【代理人】

【弁理士】

【氏名又は名称】庄子 幸男

---

**(57)【要約】**

【構成】リンデン、レモンバーム、コロハ、ルリヂシャ、ソウキュウ、鹿蹄草、大青葉、滴水珠及び風輪菜からなる群から選ばれる一種又は二種以上の植物の抽出液を有効成分とすることを特徴とするアトピー性皮膚炎用外用剤。

【効果】安全性に優れ、保湿効果及び抗炎症効果を有し、かつ止痒効果に優れているため、アトピー性皮膚炎用外用剤として適性を備えている。

---

**【特許請求の範囲】**

【請求項1】リンデン、レモンバーム、コロハ、ルリヂシャ、ソウキュウ、鹿蹄草、大青葉、滴水珠及び風輪菜からなる群から選ばれる一種又は二種以上の植物の抽出液を有効成分とすることを特徴とするアトピー性皮膚炎用外用剤。

## 詳細な説明

### 【発明の詳細な説明】

#### 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、特定の植物の抽出液を有効成分とするアトピー性皮膚炎用外用剤に関するものであって、より詳しくは、リンデン、レモンバーム、コロハ、ルリヂシャ、ソウキウ、鹿蹄草、大青葉、滴水珠及び風輪菜からなる群から選ばれる一種又は二種以上の植物の抽出液を有効成分とし、保湿効果及び抗炎症効果を有し、止痒効果に優れたアトピー性皮膚炎用外用剤に関する。

#### 【0002】

【従来の技術】アトピー性皮膚炎は、現在まだその原因が明らかとなっていない慢性の皮膚疾患であり、皮膚の乾燥しやすい人や外界の刺激に弱い皮膚を持った人がかかりやすいと考えられている。近年、この疾患に悩む人々は増えるばかりであり、未だ有効な治療法が見つかっていないのが現状である。その症状の特徴としては、小児期では、丘疹、紅斑、肥厚及び苔癬化、青年期では、紅斑及び落屑を伴う肥厚及び苔癬化があげられ、共に掻痒感を伴う。この掻痒感による掻破のため皮膚炎となり症状は悪化していく。この掻痒感がアトピー性皮膚炎が難治である原因の一つであると考えられ、この改善及び治療が試みられている。

【0003】アトピー性皮膚炎を改善又は治療するものとしては、抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤、抗炎症剤及びステロイド剤等が知られているが、何れも薬理効果及び副作用の点において必ずしも満足できるものではなかった。例えば、抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤は、止痒効果はあるものの持続性や抗炎症効果に欠け、服用後に倦怠感や眠気が生じる等の症状が現れ日常生活に支障をきたすことがあるために慢性の掻痒に対しての長期連用は困難であった。また一方、ステロイド剤は、薬理効果は高いものの薬剤特有の副作用が非常に強く、使用にあたっては十分な配慮が必要であると同時にこれも又、長期連用は困難であった。

【0004】その他にも掻痒感を抑えることを目的として、発汗を抑制する薬剤や尿素軟膏等の保湿を目的とした製剤の適用が試みられているが、その作用は一時的であり、特に掻破後の炎症を伴った諸症状には十分な効果がなかった。更に、近年では内服、外用に関係なく、作用は緩和ではあるが副作用軽減を主目的に天然素材のアトピー性皮膚炎への利用研究がなされている。例えば、特開平6-166629号公報には大柴胡湯及び当帰芍薬散を混合したアトピー性皮膚炎改善剤が開示されており、特開平6-329547号公報にはヨモギの抽出液及び馬油を含むアトピー性皮膚炎に有効な外用剤が開示されている。しかしながら、これらのいずれもその効果の点で充分ではなかった。

#### 【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、前述した従来からの欠点を抜本的に解決するもので、保湿効果及び抗炎症効果を兼ね備え止痒効果に優れたアトピー性皮膚炎を治療・改善する安全性の高い外用剤を提供することにある。

#### 【0006】

【課題を解決するための手段】アトピー性皮膚炎は、慢性の掻痒性皮膚疾患の一種であり、この掻痒感による掻破により確実にその部分に炎症が生じてその炎症を悪化させる。本発明者は、この掻痒感を抑えるために、保湿効果と皮膚の炎症を抑える効果を併せ持つ外用剤があれば、アトピー性皮膚炎を改善することが出来るであろうとの着眼の元に、天然素材のうちのハーブ類、漢方薬類に着目し前記目的を達成するために鋭意研究し試行錯誤の結果、リンデン、レモンバーム、コロハ、ルリヂシャ、ソウキウ、鹿蹄草、大青葉、滴水珠及び風輪菜の抽出物が保湿効果、抗炎症効果に優れ、更には皮膚の掻痒感を抑えるという新たな知見を得て、本発明を完成させたものである。すなわち、本発明によれば、リンデン、レモンバーム、コロハ、ルリヂシャ、ソウキウ、鹿蹄草、大青葉、滴水珠及び風輪菜からなる群から選ばれる一種又は二種以上の植物の抽出液を有効成分とする安全で非常に有効性の高いアトピー性皮膚炎用外用剤が提供される。

#### 【0007】

【発明の具体的説明】本発明に使用するリンデンは、シナノキ科の植物セイヨウシナノキ (*Tilia Europaea* L.) であり、料理・飲み物の香味付けやハーブティなどに使用されている。そのエキスとしては、リンデンの全草を水及び／又はアルコールで抽出し、さらにエタノールを添加することによって不純物を除去したものが好適に用いられる。

【0008】レモンバームは、シソ科の植物セイヨウヤマハッカ、コウスイハッカ (*Melissa officinalis* L.) であり、料理・飲み物の香味付けやハーブティなどに使用されている。そのエキスとしては、レモン

バーム的全草を水、アルコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン及びプロピレングリコール等の一種あるいはその混合物で抽出し、ろ過したものが好適に用いられる。

【0009】コロハは、マメ科の植物コロハ (*Trigonella foenumgraecum* L.)であり、カレー粉やソースの原料として使用されている。そのエキスの抽出液は、コロハの種子及び／又は葉を水、アルコール及び有機溶媒等で抽出したものが好適に用いられる。また得られた抽出液を活性炭及びイオン交換樹脂等の吸着剤を使用して精製した画分を用いることも出来る。

【0010】ルリヂシャは、ムラサキ科の植物ボラゴソウ (*Borago officinalis* L.)であり、葉は食用にされている。そのエキスの抽出液は、ルリヂシャの全草を水、アルコール及び有機溶媒等で抽出したものが好適に用いられる。また得られた抽出液を限外ろ過及び逆浸透膜等を使用して精製した画分を用いることも出来る。

【0011】ソウキュウは、ユリ科の植物七葉一枝花 (*Paris polyphylla* Smith var. *chinensis* Franch.)の根茎であり、漢方薬としても使用されている。そのエキスの抽出液は、ソウキュウを水、アルコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン及びプロピレングリコール等の一種あるいはその混合物で抽出し、ろ過したものが好適に用いられる。

【0012】鹿蹄草は、イチヤクソウ科の植物イチヤクソウ (*Pyrola japonica* Klenze)の全草であり、漢方薬としても使用されている。そのエキスの抽出液は、イチヤクソウの全草を水、アルコール及び有機溶媒等で抽出したものが好適に用いられる。また、得られた抽出液を限外ろ過、逆浸透膜及びイオン交換樹脂等の吸着剤を使用して精製した画分を用いることも出来る。

【0013】大青葉は、クマツヅラ科の植物マキバクサギ (*Clerodendron cyrtophyllum* Turcz.)の枝葉であり、漢方薬としても使用されている。そのエキスの抽出液は、大青葉を水、アルコール及び有機溶媒等で抽出したものが好適に用いられる。また得られた抽出液を限外ろ過、活性炭及びイオン交換樹脂等の吸着剤を使用して精製した画分を用いることも出来る。

【0014】滴水珠は、サトイモ科の植物心葉半夏 (*Pinellia cordata* N.B.Br.)の塊茎であり、漢方薬としても使用されている。そのエキスの抽出液は、滴水珠を水及び／又はアルコールで抽出し、さらにエタノールを添加することによって不純物を除去した画分が好適に用いられる。

【0015】風輪菜は、シソ科の植物オキナワクマバナ (*Clinopodium chinense* (Benth.) O.Ktze.)の全草であり、漢方薬としても使用されている。そのエキスの抽出液は、風輪菜を水、アルコール及び有機溶媒等で抽出したものが好適に用いられる。また得られた抽出液を活性炭及びイオン交換樹脂等の吸着剤を使用して精製した画分を用いることも出来る。

【0016】本発明の皮膚外用剤は、これら植物抽出液を有効成分として皮膚施用上許容し得る公知の剤型に配合して製造するものであり、その配合量は処理方法、濃縮度合い、および配合する製剤の形態によって多少異なるが、通常、抽出液又はその処理液を 0.001ないし 20重量%、とくには 0.05ないし 5重量%程度配合するのが好ましい。

【0017】また、従来からアトピー性皮膚炎に用いられている薬剤と併用し、その効果を増強させることも可能であり、その際は適宜配合量の調整が必要である。この場合、その症状に応じて従来の薬剤の量を減じることができ副作用を低減させることが可能である。

【0018】本発明のアトピー性皮膚炎外用剤は、先に述べたように、皮膚施用上適するものであれば特に制限はなく、例えばパップ剤、プラスター剤、ペースト剤、クリーム、軟膏、エアゾール剤、乳剤、ローション、乳液、エッセンス、パック、ゲル剤、パウダー、ファンデーション、サンケア、バスソルトなどの公知の形態で幅広く使用に供されるものである。

【0019】本発明の皮膚外用剤を調製する場合、通常に用いられる種々の公知の有効成分、例えば塩化カルプロニウム、セファランチン、ビタミンE、ビタミンEニコチネート、ニコチン酸、ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキなどの末梢血管拡張剤、カンフル、メントール、ハッカ油などの清涼剤、ヒノキチオール、塩化ベンザルコニウム、ウンデシレン酸などの抗菌剤、副腎皮質ホルモン、ε-アミノカプロン酸、塩化リゾチーム、グリチルリチン、アラントインなどの消炎剤、コウジ酸、アスコルビン酸、アルブチンなどの色白剤、センブリエキス、ニンクエエキス、ニンジンエキス、オウゴンエキス、ローズマリーエキス、アロエエキス、ヘチマ抽出物、イチョウ抽出物、ニフトコ抽出物、紫根エキス、肝臓抽出物、胎盤抽出液、乳酸菌培養抽出物などの動物・植物・微生物由来の各種抽出物などをその時々目的に応じて適宜添加して使用することができる。また、当該有効成分や界面活性剤、油脂類などの基剤成分の他、必要に応じて公知の保湿剤、増粘剤、防腐剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤・散乱剤、キレート剤、pH調整剤、香料、着色料など種々の添加剤を併用できる。

【0020】

【実施例】次に、本発明の実施例として、前記植物の抽出液の製造例並びにその効果を示すため

の試験例を挙げるが、これらは本発明を何ら限定するものではない。

【0021】＜製造例1＞乾燥したリンデンの全草を粉碎し、この粉碎物90gに水1kgを加え、室温下3時間攪拌抽出した。その後5℃で3日間放置後ろ過し、さらにエタノール適量を加えろ過した。得られたろ液に水を加えて調整し10%エタノール抽出液約5kgを得た。

【0022】＜製造例2＞乾燥したレモンバームの全草を細切し、この細切物200gに10kgの30%1,3-ブチレングリコール水溶液(w/w)を加え、室温下で2時間攪拌抽出した。この抽出液をろ過し、抽出液約9kgを得た。

【0023】＜製造例3＞乾燥したコロハの種子を粉碎し、この粉碎物200gに水1kgを加え、室温下で一昼夜攪拌抽出した。その後5℃で10日間放置し、ろ過した。このろ液に、合成吸着剤HP21を添加し、1時間攪拌した後に合成吸着剤HP21を除去し、抽出液約900gを得た。

【0024】＜製造例4＞乾燥したルリヂシャの全草を粉碎し、この粉碎物50gに50%エタノール水溶液(w/w)1kgを加え、室温下で一昼夜攪拌抽出した。その後ろ過し、抽出液約900gを得た。

【0025】＜製造例5＞乾燥したソウキウを細切し、この細切物200gに10kgの30%1,3-ブチレングリコール水溶液(w/w)を加え、室温下で20時間攪拌抽出した。この抽出液をろ過し、抽出液約9kgを得た。

【0026】＜製造例6＞乾燥した鹿蹄草の全草を粉碎し、この粉碎物40gに10%エタノール(w/w)1kgを加え、室温下で2時間攪拌抽出した。その後、ろ過しろ液を逆浸透膜(日東電気工業株式会社製:NTR-7410)処理し、透過液300gを得た。

【0027】＜製造例7＞乾燥した大青葉を粉碎し、この粉碎物200gに10%エタノール水溶液(w/w)1kgを加え、50℃で2時間攪拌抽出した。冷却後ろ過し、ろ液を限外ろ過し、透過液約800gを得た。

【0028】＜製造例8＞乾燥した滴水珠を粉碎し、この粉碎物200gに精製水1kgを加え、室温下で2時間攪拌抽出した。ろ過後、ろ液に50%エタノール水溶液(w/w)になるようにエタノールを適量加え、5℃で1時間放置後ろ過し、抽出液約1.8kgを得た。

【0029】＜製造例9＞乾燥した風輪菜を粉碎し、この粉碎物100gに10%エタノール水溶液(w/w)1kgを加え、一昼夜室温下で攪拌抽出した。ろ過後、ろ液に合成吸着剤SP850を添加し、1時間攪拌した後に除去し抽出液約900gを得た。

【0030】

【試験例】

＜試験例1＞インピーダンスメーターによる保湿性試験高周波インピーダンスメーター(IBS社製:MODEL IB-355)を用い、精製水をコントロールとして本発明の抽出液の保湿性を調べた。供試試料:(1)コントロール:精製水(2)コントロール:10%エタノール(3)コントロール:50%エタノール(4)コントロール:30%1,3-ブチレングリコール(5)製造例1(リンデンの10%エタノール抽出液)(6)製造例2(レモンバームの30%1,3-ブチレングリコール抽出液)

(7)製造例3(コロハの水抽出液)

(8)製造例4(ルリヂシャの50%エタノール抽出液)

(9)製造例5(ソウキウの30%1,3-ブチレングリコール抽出液)

(10)製造例6(鹿蹄草の10%エタノール抽出液)

(11)製造例7(大青葉の10%エタノール抽出液)

(12)製造例8(滴水珠の50%エタノール抽出液)

(13)製造例9(風輪菜の10%エタノール抽出液)

【0031】(測定方法)ヒト前腕部内側に試料を塗布(2cm×2cm)し、30秒後すばやくガーゼで軽く拭き取り、1分毎に皮膚の電導度(コンダクタンス)を経時的に5分まで測定した。

(測定条件:測定室内温度20℃、湿度60%、測定回数n=10)。

【0032】(測定結果)表1に示すごとく、植物抽出液には、高い保湿性が認められた。

表1 植物抽出液の保湿性に及ぼす効果

経過時間	コンダクタンス (s)						
	スタート前	0分	1分	2分	3分	4分	5分
精製水	40	150	65	57	48	41	39
10%エタノール	40	144	60	58	50	40	40
50%エタノール	40	132	60	53	42	41	38
1,3-BG	40	188	87	65	55	43	41
製造例1	40	302	170	132	110	90	85
製造例2	40	265	150	120	100	85	80
製造例3	40	282	155	133	123	100	84
製造例4	40	246	140	120	126	103	91
製造例5	40	295	185	176	135	105	87
製造例6	40	284	158	123	114	97	82
製造例7	40	278	161	147	136	113	93
製造例8	40	256	152	140	119	90	81
製造例9	40	240	121	112	107	86	79

【0033】＜試験例2＞ モルモットによる抗炎症効果(試験方法)ハートレー系白色モルモットに、紫外線照射の1時間前及び30分前の2回にわたり試料を塗布し、キムワイプでふき取った後洗浄した。その後、UVBランプ2本を使用してモルモットの方向を変えて2分ずつ計4分間紫外線の照射を行った(UV量: 305nm 0.980mW/cm, 365nm 0.420mW/cm)。そして、紫外線照射直後、3時間後及び6時間後に試料を塗布し、紫外線照射の6時間後及び24時間後に肉眼及び色差計により測定を行った。プラセボとして、1,3-ブチレングリコールの30%(w/w)水溶液を用いた。

【0034】なお、判定基準は以下のとおりである。肉眼による判定は次の5段階で行った。

4: 高度、3: 中程度、2: 軽度、1: 軽微、0: なし 色差計による紅斑度は、以下の式から算出した。

紅斑度(a値) = (照射後a値・3回測定平均) - (照射前a値・3回測定平均)

サンプル調整: 1,3-ブチレングリコールが最終濃度で30%(w/w)配合になるように調整した。

【0035】(測定結果) 目視による判定結果を表2に、色差計による判定結果を表3に示した。なお、試験には1群につきモルモット8匹を使用し、その平均値を表に記入した。どちらの判定によっても、植物抽出液には紅斑抑制効果が見られた。

【0036】

表2 目視による紅斑抑制制度測定

試料	プラセボ	実施例								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
6 h	4.00	0.58	2.35	3.55	2.98	1.58	3.25	2.28	1.33	1.52
24 h	1.52	0.22	0.45	0.67	0.34	0.28	1.07	0.56	0.39	0.66

【0037】

表3 色差計による紅斑抑制制度測定

試料	プラセボ	実 施 例								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
6 h	4.29	2.04	2.65	2.03	2.01	2.35	3.30	2.83	1.93	1.62
24 h	1.71	0.07	1.05	0.15	0.62	0.31	0.77	0.20	0.31	0.77

【0038】＜試験例3＞ ヒトによるアトピー性皮膚炎の治療・改善効果(試験方法)アトピー性皮膚炎(炎症を伴った難治性の症状)の認められる2歳から40歳の男女15名を対象に試験を実施した。手の湿疹部位に、後述する処方例1のクリーム(代表例)を1日に3回塗布した。

【0039】(観察項目及び観察日)塗布開始時、1週間後、2週間後、3週間後、4週間後に、自覚症状としての掻痒感及び皮膚所見(紅斑、丘疹、湿潤、苔癬化、落屑を総合したもの)について、それぞれその程度を次の5段階で判定した。

4:高度、3:中程度、2:軽度、1:軽微、0:なし有用度は各項目の改善度および被験者の問診から、きわめて有用(+++)、かなり有用(++)、有用(+)、無効(-)と判定した。

【0040】(結果)結果を表4に示す。

表4 アトピー性皮膚炎に対する改善試験

No	Age	性	掻 痒 感					皮 膚 症 状					有用度
			0	1	2	3	4	0	1	2	3	4	
1	42	男	3	2	1	1	0	4	3	2	1	1	+++
2	27	男	4	2	2	1	1	4	3	2	1	1	+++
3	16	女	4	3	2	1	0	3	2	1	1	0	++
4	23	男	3	2	2	2	1	2	1	1	0	0	++
5	9	女	2	2	1	0	0	4	2	0	0	0	++
6	26	男	3	2	1	1	0	4	1	0	0	0	+++
7	32	女	3	3	3	2	1	3	3	2	2	1	+
8	24	女	3	2	1	0	0	3	2	1	0	0	+++
9	12	男	2	1	0	0	0	1	1	1	0	0	+
10	7	女	2	1	0	0	0	1	1	1	0	0	+
11	42	女	2	1	1	0	0	2	1	0	0	0	++
12	6	女	3	2	1	0	0	2	1	1	0	0	+++
13	18	男	2	1	0	0	0	2	2	1	1	0	++
14	2	女	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	+
15	13	女	4	2	2	1	1	4	3	2	2	2	+++

【0041】上記結果から明らかな通り、15名の臨床試験結果は、きわめて有用が6名(40%)、かなり有用が5名(33%)、有用が4名(27%)、無効が0名(0%)であり、本発明の皮膚外用剤の著しい効果が立証された。なお、試験期間を通じて副作用は全く認められず、安全性が高いことも証明された。

【0042】以下に本発明の処方例を示す。処方例中「適量」とは、処方全体が100重量%になる値を意味する。

【0043】＜処方例＞ 処方例1 クリーム(重量%)

A モノステアリン酸 2.0 ポリエチレングリコール(40.E.O.) 自己乳化型モノステアリン酸グリセリン



5.0 ステアリン酸 5.0 ベヘニルアルコール 1.0 流動パラフィン 10.0 トリオクタン酸グリセリル 10.0 B グリセリン 5.0 エチルパラベン 0.1 製造例1の植物抽出液 0.5 精製水 適量Aに属する成分を加熱溶解する。別にBに属する成分を加熱溶解する。AにBを添加して攪拌、乳化後、冷却してクリームを製造した。

【0044】

処方例2 乳液 (重量%)

A モノステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン (20.E.O.) 1.0 モノステアリン酸ポリオキシエチレンソルビット (60.E.O.) 0.5 親油型モノステアリン酸グリセリン 1.0 ステアリン酸 0.5 ベヘニルアルコール 0.5 アボカド油 4.0 トリオクタン酸グリセリル 4.0 1,3-ブチレングリコール 5.0 製造例2の植物抽出液 1.0 メチルパラベン 0.2 精製水 適量Aに属する成分を加熱溶解する。別に、Bに属する成分を加熱溶解する。AにBを添加して攪拌、乳化後、冷却して乳液を製造した。

【0045】

処方例3 化粧水 (重量%)

ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油 (60.E.O.) 8.0 エタノール 15.0 製造例9の植物抽出液 0.1 エチルパラベン 0.1 クエン酸 0.1 クエン酸ナトリウム 0.3 1,3-ブチレングリコール 4.0 エデト酸二ナトリウム 0.01 精製水 適量上記の各成分を混合、均一に攪拌、溶解し化粧水を製造した。

【0046】

処方例4 クリームパック (重量%)

A ビーガム 5.0 スクワラン 2.0 プロピレングリコール 5.0 製造例2の植物抽出液 2.0 製造例3の植物抽出液 2.0 ビタミンB12 0.05 精製水 適量 B 酸化亜鉛 10.0 C エタノール 5.0Aに属する成分を混合、攪拌して膨潤させ、Bを少しずつ加える。これにCを徐々に加えてペースト状になるまで混練しクリームパックを製造した。

【0047】

処方例5 エッセンス (重量%)

グリセリン 20.0 エタノール 1.0 製造例4の植物抽出液 0.3 精製水 適量上記の各成分を混合、均一に攪拌、溶解しエッセンスを製造した。

【0048】

処方例6 親水性軟膏 (重量%)

A ポリオキシエチレンセチルエーテル 2.0 グリセリルモノステアレート 10.0 流動パラフィン 10.0 ワセリン 4.0 セタノール 5.0 B プロピレングリコール 10.0 メチルパラベン 0.1 製造例5の植物抽出液 1.0 精製水 適量Aに属する成分を加熱溶解する。別に、Bに属する成分を加温溶解する。AにBを添加して攪拌、乳化後、冷却して親水性軟膏を製造した。

【0049】

処方例7 エアゾール剤 (重量%)

A コウジ酸 2.0 製造例8の植物抽出液 2.0 ニコチン酸ベンジル 0.01 ビタミンEアセテート 0.05 セタノール 1.2 プロピレングリコール 4.0 エタノール 8.0 精製水 適量 B LPG 7.0Aに属する成分を均一に混合溶解してエアゾール容器に入れ、常法によりBを容器に充填してエアゾール剤を製造した。

【0050】

処方例8 パップ剤 (重量%)

A ポリアクリル酸 30.0 モノオレイン酸ソルビタン 1.0 精製水 適量 B ポリアクリル酸ソーダ 7.0 塩化アルミニウム 0.3 製造例5の植物抽出液 0.05 濃グリセリン 20.0 酸化チタン 1.0Aに属する成分を加温溶解する。別に、Bに属する成分を加温溶解して攪拌、混合し、パップ剤を製造した。

【0051】

処方例9 浴用剤 (液状タイプ)  
(重量%)

モノステアリン酸ソルビタン 4.0 カルボキシビニルポリマー 0.1 パラオキシ安息香酸メチル 0.1 プロピレングリコール 20.0 エタノール 5.0 香料 微量 コメハイガ油 2.0 トウキ抽出液 5.0 製造例6の植物抽出液 3.0 精製水 適量上記の各成分を混合して均一とした後、ろ過し、液状タイプの浴剤を製造した。

【0052】

処方例10 浴用剤 (顆粒タイプ)  
(重量%)

A 塩化ナトリウム 5.0 硫酸ナトリウム 40.0 セスキ炭酸ナトリウム 10.0 炭酸水素ナトリウム 26.0 デ

キストリン(造粒用賦形薬) 10.0 ラベンダー油 1.0 ハッカ油 1.0 香料 微量 黄色 205号 微量 製造例7の植物抽出液 5.0 B カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液 2.0Aに属する成分を粉末混合機で十分混和する。AにBを加えて十分に混和し適切な造粒機(例えば円筒造粒機)で造粒し、顆粒タイプの浴剤を製造した。

【0053】処方例1ないし10の外用剤は、いずれも本発明の目的を満足する効果を有する製剤であることが確認された。

【0054】

【発明の効果】本発明によれば、リンデン、レモンバーム、コロハ、ルリヂシャ、ソウキュウ、鹿蹄草、大青葉、滴水珠および風輪菜からなる群から選ばれる一種又は二種以上の植物の抽出液を含有した安全なアトピー性皮膚炎用外用剤が提供され、該外用剤は保湿効果、抗炎症効果に優れ、さらには止痒効果にも優れており、アトピー性皮膚炎用外用剤として有用である。